

【調査結果のポイント】

調査の結果、新型コロナウイルスによる客足の低下や物価の上昇により、約半数が売上や利益の減少という問題を抱えていることが伺える。今後の見通しについても、好転が見込めないとする回答が過半数を占めていることから、ウィズコロナを踏まえた方針の立案が今後の経営において重要であると考えられる。

I. 現状

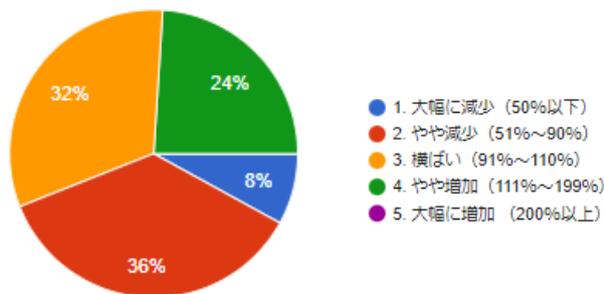
(1) 調査概要

- ・ 調査期間：令和4年1月17日～2月4日
- ・ 調査方法：WEB および FAX
- ・ 調査対象：当所会員事業所 50 社(小規模事業者)
(サービス業・建設業・製造業・卸売業・小売業)

(2) 前年同期との売上比較

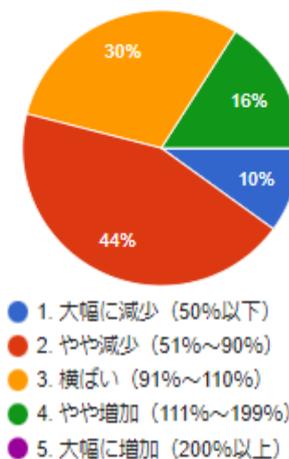
前年同期比の売上への影響は「大幅に減少」、「やや減少」を合わせると 44%。減少の影響が発生した要因としては、「客数の減少」が最も多く、42.9%となっている。

図表 1-1 売上高

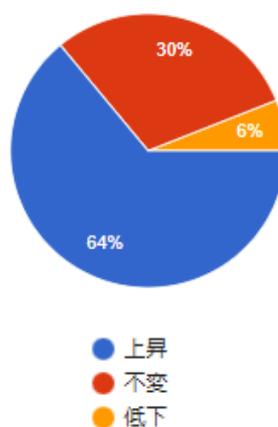


(3) 前年同期との利益・仕入比較

図表 1-2 利益



図表 1-3 仕入高

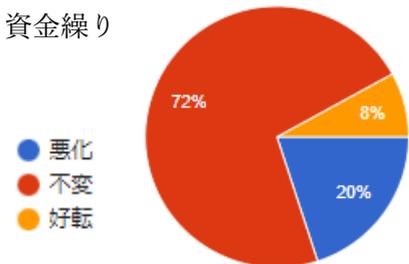


前年同期比の利益への影響は、「大幅に減少」、「やや減少」を合わせると 54%と、売上高よりも、減少している事業所が多い。仕入高が「上昇」と回答した割合は 64%と高く、利益が減少した理由の1つとして考えられる。

(4) 資金繰りについて

次に資金繰りについて尋ねたところ、「不変」が最も多く 72%を占めている。利益の減少を給付金の受給や融資の活用により、資金を確保しているのではないかと推測される。

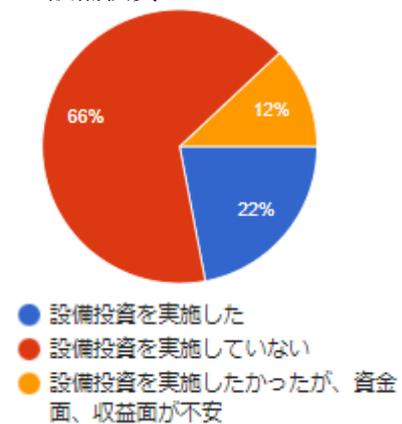
図表 1-4 資金繰り



(5) 設備投資について

設備投資を「実施していない」と回答した割合は 66%、設備投資を「実施した」割合は 22%であった。また、「実施したかったが、資金面、収益面が不安で実施できなかった」と回答した事業所は 12%という結果であった。

図表 1-5 設備投資



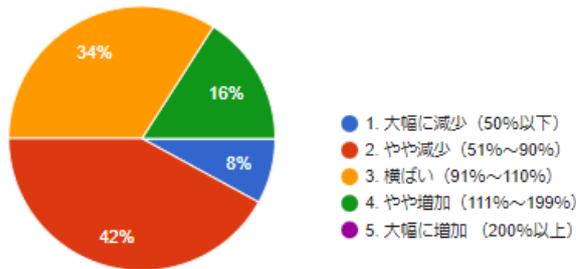
令和3年度 丸亀商工会議所 景気動向調査 結果

II. 今後の見通しについて

(1) 売上高（前年同期比）

前年同期比の売上への今後の見通しは「大幅に減少」、「やや減少」を合わせると50%と、現状に比べて、減少の割合が大きくなっている。減少と回答した要因としては、「客数の減少」が最も多く、42.9%であり、これは現状と同様である。

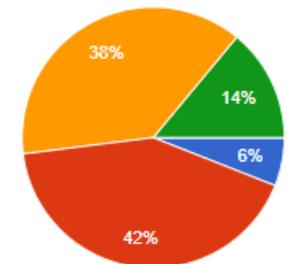
図表 2-1 売上高



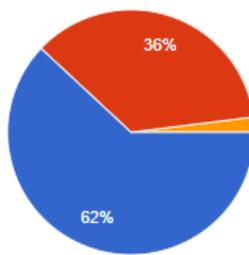
(2) 前年同期との利益・仕入比較

前年同期比の利益の今後の見通しは、「大幅に減少」「やや減少」を合わせると48%と、売上高とほぼ同様の数字である。仕入高が「上昇」と回答した割合は、62%と高く、利益を創出しにくい状況であるといえる。

図表 2-2 利益



図表 2-3 仕入高



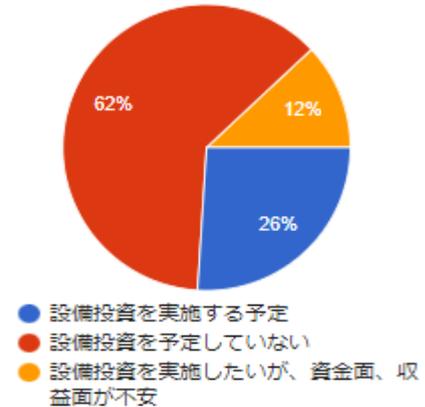
(3) 資金繰りについて

次に資金繰りについて尋ねたところ、「不変」が、最も多く、72%を占めており、現状と同様の割合となっている。

(4) 設備投資について

設備投資を「予定していない」と回答した割合は62%、設備投資を「実施する予定」の割合は26%であった。また、「実施したいが、資金面、収益面が不安」と回答した事業所が12%という結果であった。

図表 2-4 設備投資



(5) 補助金・助成金の活用について

現在までに申請した補助金・助成金について（複数回答可）で尋ねたところ、最も多かったのが「小規模事業者持続化補助金」で40.8%、次いで、「丸亀市 With コロナ事業継続応援補助金」が36.7%であった。また、「どれも利用していない」と回答した事業所が34.7%であった。

今後申請を検討している補助金・助成金について（複数回答可）尋ねたところ、「どれも利用する予定はない」が44.7%と補助金等の申請には慎重な姿勢が見られた。

(6) 総括

本調査では、新型コロナウイルス感染症の影響により、売上が減少している事業所が多い結果となった。また、売上が減少した事業所より、利益が減少した事業所の方が多い。今後は差別化されたサービス、付加価値の高い製品やサービスを提供し、適切に価格転嫁することにより、小規模事業者の利益率を高める必要がある。

また、各支援制度を適切かつ効果的に活用しつつ、変化する事業環境を見極め、準備を進めていく必要があり、当所としても支援に努めたい。